

「たたかわない勇氣」

まぐまぐ殿堂入り・日刊メールマガジン
「今日のフォーカスチェンジ」第209号
(2009年7月28日発行)より

昨夜、外に出たら、お月さまがとても美しく、じっと見つめていたら、こんなことばが降りてきました。

「たたかわない勇氣」

それは、まるでいま見ている月の光のように、すうっと、私のなかに、しみこんでくるのでした。...「たたかわない勇氣」腑に落ちるものがありました。

あのひとに、あんなことを言われるすじあいはない！ どうして、私の意見が尊重されないの？ こうしてくれれば、もっとうまくいくはずなのに...

いつでも、無数の、たたかひの気持ちか、こころのなかに、生まれては消えていきます。それほどはげしいものでなくても、ちいさな火種は、いつだって、すきをね

らい、噴き出そうとするのです。

もちろん、不当なあつかひを、耐えしのぶ必要はありません。私たちは、自分が生きることにおいて、必要なことは必要だと主張しているのです。

自分の気持ちを押し殺してがまんをすることは、平和でもなんでもありません。

でも、そのときに、相手を否定したり、憎んだりする必要もないのです。

相手には、相手の考えかたがあり、感じかたがあり、生きかたがあるのです。

少なくとも、相手は、そのような価値観で、これまで生きてきたのです。あなたが、あなたの価値観を否定されたくないように、相手もまた、自分の価値観を否定されたくないのです。

だから、どのような価値観であっても、ひとまず、それを、みとめましょう。みとめるとは、同意することとは、ちがいます。ああ、そのようにあるのだと、ただ、認識するというだけのことです。

あなたのなかで、先に、たたかひを終わ

らせるのです。たたかわないでいることは、勇氣のいることですが、あえてその勇氣を使うのです。

たたかひは、相手とあなたのあいだにあるのではなく、あなた自身のなかにあるのです。

あなた自身が、あなたのなかで、たたかひを終わらせることができれば、たちまちおだやかな時間がおとずれます。

そのうえで、あなたは、相手に、自分の気持ちを、素直に伝えればよいのです。ただし、あくまでも、あなたの気持ちを、ですよ。相手を変えようとする、また、たたかひのモードに逆戻りです。相手の問題は、相手が考えることであって、あなたの領分ではないのですから。

おそらく、少なからぬ数のかたが、「そんなことをしたら、相手の思うつぼだ」「負けてしまう」と、感じられると思います。でも、自分のなかでたたかひを終わらせてから、ことにあたる、びっくりするくらい、すつと、とおってしまうことが、しばしばあるのです。

理論的な証明はできないのですけれども、少なくとも、私自身の体験では、そのようになっているのです。

ひょっとしたら、それは、鏡の法則と呼ばれるものなのかもしれません。

自分自身の波動がおだやかになると、無意識のうちに、相手の波動にも影響をおよぼす、ということなのかもしれません。

結果は、どう出るかわかりません。

でも、どのみち、簡単には解決することではなかったことのはずです。だったら、だめもとで、いつもとちがうやりかたを選んでみるのも、ひとつの方法でしょう。

「たたかわない勇氣」...月夜に降りてきた、不思議なメッセージ。それはまさに、燃えさかる太陽とは対照的に、おだやかにはたらきかける、お月さまの思いそのものなのかもしれません...

●日刊メールマガジン「今日のフォーカスチェンジ」(かめおかゆみこ編集・発行)は、2003年11月1日創刊。2009年4月、2000号達成。3秒で読める携帯版もあり。無料講読は「かめわざ快心塾」から♪

<http://kamewaza.com/>